

### 久木原 洋 (埼玉/97期)

持ち味の自力攻撃に一段と磨きがかかった印象だ。今年は4月末までに13勝を挙げている。早くも昨年の10勝を上回っている。4月奈良G3で1①③⑥着と決勝に乗ると5月函館記念は2⑦②①着とGレースでも好走。



### 上田 堯弥 (熊本/113期)

今年はまだ優勝には手が届いていないものの、グレードを問わず優参は多い。G1初参戦のダービーでは、3走目は一般戦ながら逃げて2着に粘っている。当所は1月に参戦して1①⑥着、準決では松本貴の逃げをまくりで仕留めた。



### 才迫 開 (広島/101期)

今年は2戦目の1月岸和田記念in和歌山1①③⑥着とスタートダッシュを決めると、その後もハイペースで勝ち星を稼いでいて、4月末までに14勝を挙げている。とにかく勢いがあるので連日注目したい。



## レインボーカップ A級ファイナル

6/8 (最終日) 9R

3着まで入ればS級に特進を果たせる期末恒例のシリーズだが、来期もA級なのは山本巨樹のみ。山本に前を任せられるだろう北川大五郎はより気合が入りそうだが、レインボーカップにしても稀に見る好メンバーがそろって勝負の行方を占うのは難しい。中では藤井侑吾、西村光太の中部コンビにまず目がいく。藤井は次代のスター候補。115期のゴールデンキヤップパーで、素質はすでにG1戦線で活躍している同期にも見劣りしない。文句なくA級トップの先行型はここも先手奪取に迷いはなからう。番手でしっかりガードから西村が抜け出すレースになるとみた。力でA級に落



## 好目標を得た西村光

ちたわけではない。西村の今期の成績は驚異的だ。11場所10回優参し、5V、準V3回、決勝3着2回と、決勝で一度も確定板を外していない。最高の目標を得て、強敵相手でも優勝してS級復帰を決める。

木村弘、伊東翔貴の北日本100期コンビも組めば中部勢と対等以上に渡り合える。ともに7車立てのレースがマッチしたことが主な要因だが、前期S級から調子を上げていて、降級の今期も勢いそのまま好走を重ねている。木村は4V、伊東は5V。仕掛けが的確ならそろって特進だ。

それぞれ単騎となりそうだが、小林令、佐々木龍、野口大誠はそれをハンデと感じさせない総合力の高さがある。S級でも決勝に乗っていた佐々木は後手を踏まない組み立てからのまくりで格の違いを見せているし、小林もA級ならタテ脚だけで勝負になるレベル。野口も絶好調。得意のまくりで白星の山を築いている。